

喪主挨拶(子)

大往生といえる最後

本日はお忙しいところ、父の葬儀にわざわざ御会葬くださいまして、まことにありがとうございますございました。

またご鄭重なご弔意ならびにご香志を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

明治生まれの父は、家督をゆずりまして以来二十年、悠々自適のうちに過ゆしておりましたが、昨日明け方

病院で眠るがごとくに八十八歳の生涯を閉じました。

若い時からさまざまな苦勞も味わい尽くした生涯ではありましたが、まさに幸せな大往生ともいえる最期であったことは、子として何よりの慰なぐさめでした。

父が晩年を豊かに過ゆすことが出来ましたのも、偏に皆様方のご厚情の賜たまと深く感謝致しております。

これからは残されたものを合わせて父の遺志を受け継いでゆきたいと思えます。これまで同様のご指導とご鞭撻べんたつをお願い致しまして、お礼のご挨拶といたします。